

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792600025		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん坂下		
所在地	福島県河沼郡会津坂下町大字見明字古屋敷771-1		
自己評価作成日	平成23年6月23日	評価結果市町村受理日	平成23年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成23年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居されているかたがたの今できることを毎日の生活に取り入れて一緒に行うようにしています。 ・軽体操や歌いながらの歩行訓練～室内の散歩を毎日行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1、清掃・消毒が行き届き(各居室・共用空間)清潔感が漂う、緑豊かな山並みが望める明るい居住性の良いリビングで穏やかに利用者が過ごしている。 2、書類管理(データ類の電子化)、町役場や家族(海外居住)とのコミュニケーション等に(電子メール)パソコンが有効活用されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当時からの理念を共有している。各勤務帯で職員同士が理念を唱和してから勤務に臨んでいる。	「穏やかな笑顔で生活が送れる支援を、家族と地域の絆を大切にしながら築いていきたい」と、職員の思いを込めた理念の実践に日々努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	暖かい時期には施設前で日光浴したり、地区内を散歩する。地区に居住している職員がいるので、行事なども連絡はスムーズ。夏祭りやそば祭りなどお声かけし来ていただいている。	地区の一員として「お田植え祭り」へ参加する等の日常的な交流の他に事業所が開催する、夏・秋祭り、そば祭りに地域住民を招待する等双方向の交流がなされている。参加者からは好評を得ている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報提供しているのみ。今後は認知症サポーター養成講座の開催など事業所及び地区に働きかけるために地域包括支援センターに協力をお願いしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	入居者の状況や事故報告なども行っている。活動内容などについてそれぞれの専門的立場から助言をいただいているので、議事録を回覧し職員に周知している。	定期的に関催し、事業所からの入居者状況、行事内容の報告等に対する質疑応答が行われている。委員は多彩な顔触れで構成されており、職員の待遇水準の問い掛け等多岐にわたる意見交換が行われサービス向上に活かされている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加していただいている。行政の担当者からは都度アドバイスをいただいている。	地域包括支援センター経由で、毎回の運営推進会議の議事録が町役場に届けられており、議題によっては町役場からアドバイスをいただいている。又、介護保険の申請の相談等で日頃から連絡を密にしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。身体拘束廃止についてのマニュアルがある。現在身体拘束が必要な方はいない。	職員は事業所内外の研修で、身体拘束をしないケアを理解し実践している。普段から利用者への声かけ等にも気を配り、スピーチロックにならないよう確認し合っている。玄関を含め室外に通ずるドア等は、日中、施錠はしていない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関するマニュアルがある。身体の状態(皮膚状態)も入浴時に確認している。入居者様はご自分の状況を訴えることが出来る方々であり、職員同士は注意しあえる環境にありお互いに意見を言える・聴くように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「活用して支援する」話し合いはされていませんでしたが、今回資料を作り回覧し話し合いをした。個人様の権利を守るためにも自分たちが学習し必要な情報を提供するように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や説明は管理者が行っている。来所された折には不安に感じることは無いが、職員及び管理者が相談させていただいている。年に1~2回現状に関するアンケートをとらせていただき希望を確認するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された折の相談や、年に1~2回現状に関するアンケートをとらせていただき確認している。苦情相談窓口の連絡先の記載のある書面を玄関に掲示している。運営推進会議でご家族の意見を確認するように努めている。	日常的に利用者から行事の内容等に対して意見を出してもらい、家族訪問時の面談や事業所の運営に関する家族アンケートから家族の意見等を把握し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の会議は月1回実施、事業所職員会議も月1回実施しており意見交換や情報の共有をしている。職員会議には福島県のブロック長に参加していただき助言をいただくなどして意見を反映するように努めている。	管理者は日常の職員との会話の中から意見・提案を聞いている。また、毎月1回定期開催されている職員会議で出された職員の意見が吸い上げられている。法人からの出席もあり、出された意見は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月個人目標や反省などを記入していただき、主任と検討している。定期的に面談して資格取得などについて話をしたり個人目標を確認するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修への参加や施設内伝達研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者研修への参加。グループホーム協議会の研修に参加。会社内委員会やケアマネ会などへの参加を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員と居室担当者が本人のアセスメントを実施して、本人の思いや不安を確認し、職員間で共有して信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護支援専門員と居室担当者が本人のアセスメントを実施して、本人の思いや不安を確認し、職員間で共有して信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至る経過と現在の本人および家族の希望を聞き取り支援できる体制を作るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が何を望まれるか確認しながら、その日その時に、家事や出来ることを一緒に行うように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって一番大事なものは家族とのかかわり～絆である事を理解して、必要なときに連絡を取りながらお互いにご本人の生活を支えられるように努めている。(来所時や電話での相談や近況報告などを通じて)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の来所、家族との自宅への帰宅やお墓参り、行きつけの美容室や薬局への送迎などを続けている。行事には家族に来ていただけるように連絡をとって参加していただけるように努めている。	商店や美容院などの馴染みの場所へ出かけられるよう支援したり、家族・友人に面会に来てもらう等、これまでの関係が継続される様努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみやおやつやレクリエーションの時間を持っている。お茶の時間以外でもお茶が飲めるようにしたり、入居者様の部屋で会話やお茶飲みが出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居したり入院したりした方がいらっしゃると思いますが、ご家族とお会いしたときには近況を確認し必要時にはご相談いただきたい旨をお話するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に一度アセスメントを実施し本人の希望や意向を確認するように努めている。職員で話し合いをする前にご家族様にも意見を確認させていただくように努めている。	日々の生活の中での言葉、表情、行動などを通じて思いや意向を把握している。利用者の心身の状況等の些細な変化を支援記録に記録し職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様からお話を確認し、楽しかったことなどを話題に出来るように職員同士情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日どのように過ごされたか記録・申し送りし同じ支援が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを基に職員全員で現状を検討し意見を出し合っている。日々の生活に即したご本人の意向を達成できるように、またご家族様にも理解していただけるようなケアプラン作成に努めている。	利用者及び家族の意向を踏まえ、日々のケアの中から利用者の心身状況の変化を把握し、医師の意見等も聞きながら職員の気づき等モニタリング結果に基づいて短期・長期目標を設定しケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランについては主に生活記録に記入し、日々の気づいたことは業務日誌に記録を残しておくように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご希望があればそれを解決・叶えるために話し合いを持ち意見交換しながら実践できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様や地域の方々、運営推進会議の委員の方やなじみのお店の方、ボランティアの方々など協力をいただきながら支援できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の関係を継続している。受診後はご家族様に連絡を入れて受診内容の報告をさせていただいている。	月1回、利用者・家族が希望するかかりつけ医の受診に職員が付き添っている。町外での受診の際は家族が付き添う事になっている。双方とも受診結果は報告し合い、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で、日常的な報告・相談が出来る体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	3日に一度程度は面会に出向き、ご本人の状況を確認している。ご家族からの報告や医療相談室や病棟からの情報により退院に向けた話し合いが出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた入居者様には往診や訪問看護の導入をした。胃ろう造設により医療機関に入院になってしまわれたが、入居継続に向けて話し合いを持ったり取り組んだ。看取りについては昨年の課題でもあり勉強会実施した。ご家族様にもアンケートで意向を確認している。	看取りについては事業所の方針を決め、家族の希望にあわせて検討している。現在職員の研修等を重ねながら往診可能な医療機関の選定などが進められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命救急講習を年1回程度実施するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1度施設内の避難訓練を実施。年2回の総合訓練を実施。今年度は3月に地域と連携した訓練を予定している。	毎月25日に防災の意識付けを兼ねた防災訓練を行なっている。また、年2回消防署の指導で地域住民の参加の下、総合防災訓練を実施している。災害に備えた食料、発電機等の備品を近々備え付ける予定である。	非常口から外の踊り場まではバリアフリーになっている。踊り場から降りる際に2段の階段が有り避難の障害になるため、スロープにする等の対策が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴やプライドを尊重している。お一人お一人が心地よく感じる言葉でお声かけし、会話はゆったりとはっきり伝わるように努めている。	利用者に応じて方言を使分けるなど、言葉使い等に気をつけプライバシーや誇りを損ねないよう対応している。申し送り等は利用者の部屋番号を使う等の配慮もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に対応したり担当者が密に関わることで馴染みの関係になり、自分の気持ちを話せるような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけしながら希望や意向を確認し、無理にならない支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様はご自分の意思で服装や散髪などを決めている。毛染めの希望があれば対応している。自分で衣類を選べない方にも希望を確認するように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の下ごしらえや盛り付け、配膳を一緒にできる方と行っている。季節の食材が味わえるようにメニューに組み込み、一緒に食事をしながら意見を確認するように努めている。	利用者の好みを取り入れた献立で調理し、利用者・職員と一緒に会話しながら楽しい食事をしている。利用者が順番で職員と共に食事の準備や後片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の確認をしている。1日水分1800ccを目標に、好みの嗜好品を提供するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがいの声かけ。義歯の方は入れ歯洗浄剤につけるなど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつはずしまでは至らないが、排泄のパターンを確認し誘導したり、オムツの種類を検討したりしている。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カスピ海ヨーグルトを作り毎日提供している。運動や歩行訓練を実施し、水分摂取を促すように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしている。体調に応じて入浴したり足浴や清拭を行うように努めている。	利用者の希望に応じて入浴日、時間帯を決めている。平均で、1日置きの入浴となっている。入浴を拒否をする利用者は無く全員入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やソファやホールなど馴染みの場所で過ごすことが出来ている。夜間眠れない方がいる場合にはお話し相手になりホットミルクを提供して眠れるようにしたり努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方の一覧をいつでも見れるようにしている。服薬支援は出来るだけ2名で薬を確認して飲んでいただき誤薬が無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方が希望する役割を理解して支援するように努めている。洗濯物たたみや調理、掃除など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿った外出や外食、天気の良い日にご希望があるときにはドライブなど行っている。日光浴や散歩なども行うように努めている。	季節ごとの花見(桜・あやめ・イチョウの紅葉)や外食(餅・そば・寿司・パフェ)、買い物やドライブ等の外出を支援している。厳冬・暑期以外の季節には散歩を日課にしている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば金銭管理をされている。買物時には自分で支払いされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけたり、家族からの電話や手紙などあればいつでも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室もホールも季節感を出したり、過ごし易い雰囲気作りに努めている。	居間にはテーブルや大小のソファが配置され利用者は思い思いの場所で談笑したり、テレビを見たりしながら過ごしている。また、居間からウッドデッキに続く、掃き出し窓のガラス越しには四季の移り変わりを感じる風景が望める。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの居場所がそれぞれにあり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	仏壇、ベット、筆筒など馴染みの家具を持ち込んでいる方がいる。居室担当者や家族が準備した趣味のものや花を飾ったり居心地よくしている。	家具等を自由に持ち込み、好みの使い慣れた生活用品で利用者が生活し易い環境が整えられている。持ち込まれた家具などは利用者の好みに配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。手すりを使ったり車椅子自操など自立した生活を続けられるように配慮されている。		